

とうふつこ

濤沸湖水鳥・湿地センター(仮称)の整備計画について

とうふつこ

北海道のオホーツク地方に位置する濤沸湖は、オオハクチョウなどの渡り鳥の重要な中継地であり、2006年にラムサール条約登録湿地となりました。

一帯は網走国定公園にも指定されており、野鳥や植物の観察に多くの方が来訪される一方、ワカサギ漁などの内水面漁業も行われ永年にわたってワイズユースが行われてきた湖です。

環境省では、ラムサール条約の理念に基づき環境学習や保全活動の拠点となる施設を整備することとし、平成24年春の開館を目指して準備を進めています。



整備概要

目的

- 濤沸湖の自然環境を学び、自然とふれあう場をつくる。
- 濤沸湖の自然環境の調査・研究を支える場をつくる。
- 濤沸湖に関わる人々の交流・活動の場をつくる。

機能

- 展示スペース
- 観察スペース
- レクチャースペース
- 調査研究活動スペース
- 傷病鳥獣の一時収容
- ボランティア活動スペース他

整備予定地：網走市字北浜

規模：建築面積 596.16㎡

延床面積 563.76㎡

想定利用者数：約55,000人(基本構想)

オープンまでのスケジュール

- 住民説明会を4～5月に開催予定
- アヤメの移植と水路の付け替えを5月に予定
- 6月以降建物着工 年度内竣工予定
- 平成24年度 オープン予定

住民説明会の概要

各説明会をクリックすると要旨が表示されます。

第1回住民説明会

実施日：平成21年12月21日

場所：網走市農村環境改善センター

第2回住民説明会

実施日：平成22年2月26日

場所：網走市農村環境改善センター

第3回住民説明会

実施日：平成22年9月17日

場所：網走市農村環境改善センター

第4回住民説明会

実施日：平成23年2月28日

場所：網走市農村環境改善センター

[網走国定公園](#)

[ラムサール条約登録湿地](#)

類似施設

[厚岸水鳥観察館](#)

[宮島沼水鳥・湿地センター](#)

[クッチャロ湖水鳥観察館](#)

[北海道海鳥センター](#)

[ウトナイ湖野生鳥獣保護センター](#)



PDF形式のファイルをご覧いただく場合には、Adobe Readerが必要です。Adobe Readerをお持ちでない方は、バナーのリンク先からダウンロードしてください。



これまでの経過

平成17年11月8日

濤沸湖がラムサール条約湿原として登録される。

平成18年 7月

網走市・小清水町から環境省に対して施設整備を要望

平成21年度

調査設計費計上

濤沸湖周辺5箇所候補地を選定・比較検討を行い、網走市北浜地区を選定。

平成21年3月

ヒオウギアヤメの群生地について可能な限り改変範囲を減らし、影響が生じる箇所について移植を行い、保全を行う旨の基本構想を策定。

平成21年12月21日

第1回 住民説明会開催

平成22年 2月26日

第2回 住民説明会開催

平成22年 4月

予算措置により施設整備について平成22年度及び平成23年度となる。

平成22年

ヒオウギアヤメ再生地について保全方法、施設の配置について再検討

平成22年 9月17日

第3回 住民説明会開催

平成22年11月

野鳥、ヒオウギアヤメ移植に関する調査実施

平成23年 2月28日

第4回 住民説明会開催

[戻る](#)

第1回 住民説明会要旨

平成21年度、環境省は、北海道、網走市及び小清水町とともに、環境学習・保全調査拠点施設(仮称)の建設予定地を検討し、網走市北浜地区の白鳥公園隣接地を候補地として内定しました。

第1回目の住民説明会は、この建設予定地の地元にあたる北浜地区の方々を中心に開催し、御意見を伺ったものです。

開催日時等

平成21年12月21日(月) 15:00~16:30
網走市農村環境改善センター2階会議室

説明者

環境省釧路自然環境事務所 次長 則久雅司、野生生物企画官 山田雅晃、川湯自然保護官 平田愛子、黒江隆太
(他に北海道網走支庁環境生活課、網走市市民環境部が同席)

出席者

地域住民の皆様計17名

説明概要

1 濤沸湖において施設整備を行う背景

ラムサール条約への登録を機に、地元の網走市、小清水町からご要望をいただき、ラムサール条約の理念の3つの柱(①ワイズユース(賢明な利用)、②保全・再生、③交流・学習)を実現する拠点施設を濤沸湖において整備することとなった旨とそれに合わせた施設の機能(展示、観察、レクチャー、調査・研究活動の支援、傷病鳥獣の一時収容、地域やボランティア活動等への支援)を御説明しました。

2 北海道内における類似施設の紹介

環境省が北海道内で整備している他の類似施設の概要について御説明しました。御説明した施設は、厚岸水鳥観察館、宮島沼水鳥・湿地センター、クッチャロ湖水鳥観察館、北海道海鳥センター(羽幌町)、ウトナイ湖野生鳥獣保護センターです。海鳥センター以外の施設は、いずれもラムサール条約登録湿地に設けられている施設です。

3 濤沸湖にける施設整備の内容

建設予定地を北浜地区の白鳥公園隣接地とした検討経緯と整備の概要、スケジュールについて御説明しました。

(1) 北浜地区の選定

濤沸湖一帯から5箇所候補地を選定(4箇所が網走市内、1箇所が小清水町内)して比較検討し、電気、上下水道、道路のインフラが整備済みであること、白鳥公園との連携した利用が可能であること、野鳥や湿地植生の観察が行いやすいこと、交通アクセスが比較的容易であることから、北浜地区の白鳥公園隣接地を選定したことを御説明しました。

(2) 施設の整備内容

施設の内容は、建物、園地、駐車場とその他付随する施設として、河川敷地内に設けることを全体のゾーニングイメージとともにお示しました。

(3) 整備にあたっての配慮事項

整備にあたっては、景観、野鳥の生息環境、ヒオウギアヤマや希少種の移植、自然エネルギーの利用といった環境面での配慮の他、地域の方々に有効利用していただくこと、白鳥公園の野鳥観察舎との連携を考慮することを御説明しました。

(4) 施設運営のイメージ

施設については、協議会方式による運営とすることなどを御説明しました。

4 今後の予定

今後の予定として、平成21年度に基本設計まで、22年度に実施設計と建築工事、23年度に展示工事と外構工事を予定していることを御説明しました。

説明資料

1. [表紙 説明内容](#)==== PDF 134KB
2. [濤沸湖のあらまし、背景](#)==== PDF 171KB
3. [類似施設の紹介](#)==== PDF 623KB
4. [候補地の選定について](#)==== PDF 258KB
5. [施設の整備内容](#)==== PDF 178KB
6. [整備にあたっての配慮事項](#)==== PDF 477KB
7. [施設の運営イメージ他](#)==== PDF 103KB

[質疑応答の要旨](#)==== PDF 152KB

[戻る](#)

第2回 住民説明会要旨

第2回目の住民説明会は、平成21年12月21日に開催した第1回目の住民説明会を踏まえ、具体的な平面プランを用意して開催し、ご意見を伺いました。この際の参集範囲としては、北浜地区の住民の方の他、濤沸湖及び周辺域の保全推進協議会の関係者や学識経験者等に拡大して開催しました。(後になって、関係者だけに開催を案内していたことについて、参加いただけなかった住民の方から強いご批判をいただきました。このため、第3回目以降は、網走市、小清水町の全戸に開催を御案内するようになりました。)

開催日時等

平成22年2月26日(金) 15:00～17:00 網走市農村環境改善センター1階

説明者

環境省釧路自然環境事務所 次長 則久雅司、野生生物企画官 山田雅晃、川湯自然保護官 平田愛子、黒江隆太
北海道環境生活部自然環境課 大和田主査
(北海道網走支庁環境生活課、網走市市民環境部、小清水町産業課が同席)

出席者

地域住民の皆様他計24名
報道機関4社

説明概要

- 1 濤沸湖において施設整備を行う背景
第1回目住民説明会と同じ説明を行いました。
- 2 北海道内における類似施設の紹介
第1回目住民説明会と同じ説明を行いました。
- 3 施設整備の予定

第1回目の今後の予定での説明内容と同じく、平成21年度に基本設計まで、22年度に実施設計と建築工事、23年度に展示工事と外構工事を予定していることを御説明しました。

- 4 濤沸湖における施設整備の概要

建設予定地を北浜地区の白鳥公園隣接地とした検討経緯と整備の内容について御説明しました。

- (1) 北浜地区の選定
第1回目の説明内容を簡潔にまとめ、インフラが整備済みであること、白鳥公園との連携した利用が可能であること、野鳥や湿地植生の観察が行いやすいこと、交通アクセスが比較的容易であることから、北浜地区の白鳥公園隣接地を選定したことを御説明しました。
- (2) 整備にあたっての配慮事項
整備にあたっては、景観、野鳥の生息環境、ヒオウギアヤメや希少種の移植、自然エネルギーの利用といった環境面での配慮の他、地域の方々に有効利用していただくこと、白鳥公園の野鳥観察舎との連携を考慮することを御説明しました。
- (3) 施設運営のイメージ
施設については、協議会方式による運営とすることなどを御説明しました。
- (4) 施設の平面プラン
設計と施工を環境省から委任している北海道より、基本計画に盛り込む予定である平面プランについて説明を行いました。

・北浜地区の白鳥公園隣接地に整備するという方針を受けて、施設配置案を作成。隣接する観察舎との一体的な利用に配慮。

・素堀側溝は、道路の排水のためのものだが、白鳥公園と一体的に利用できるよう埋設して使用。これにより、ヒオウギアヤメ再生地の改変面積を少なくすることに寄与できる。

住民説明会配付資料

1. [表紙・項目](#)==== PDF 180KB
2. [施設整備を行う背景](#)==== PDF 178KB
3. [類似施設の紹介](#)==== PDF 90KB
4. [施設整備の予定](#)==== PDF 83KB
5. [施設整備の概要](#)==== PDF 138KB
6. [整備運営のイメージ](#)==== PDF 91KB

[配置図・平面図](#)

質疑応答の要旨

(整理出来次第掲載します)

・建物内の平面プランについては、どのような使い方をするかで変わってくる。住民の皆さんの意見を聞いて検討したい。今回の案では、一般利用エリアは湖側、管理用エリアは道路側としている。

・展示については環境省とも相談中。濤沸湖の自然やワイズユースが行われていることを紹介する内容としたい。また、ハンズオン展示としてぬいぐるみで野鳥の重さを体験できるような体験型の展示を考えたい。

・室内から見る景色も展示として利用したい。

・レクチャールームは学校利用にも対応できるようにしたい。

・野鳥観察は早朝であるため、トイレは24時間対応も可能なように、入り口を施設の内外の2箇所に分ける予定。

・バリアフリー対応CO2削減に配慮した構造とする。

・平成22年度は、実施設計を行い、その後に建物本体工事を行う。工事は早くても9月頃に着工。ただし、土質が悪いため基礎に杭を打つが、その時期がカモ類の飛来時期と重なるおそれがあるので、その際には施工時期の配慮をしていきたい。

[戻る](#)

第3回 住民説明会要旨

平成22年2月に開催した第2回目の住民説明会では、この場所での整備について基本的に合意をいただきましたが、改変面積をより少なくするように計画を修正すること、ヒオウギアヤメと希少種は出来る限り移植するなどして保全するという条件をいただきました。また、その後も、この説明会に参加できなかった団体・住民の方から、この場所が選ばれた場所の経緯の説明が不十分(他の場所で良いのではないかと)、希少種は移植して保全するのではなく生育環境の保全を優先すべき、といった様々なご指摘をいただきました。

これらのことから、再度、当該地区での整備にあたって最大限の配慮ができないかを再検討し、建物の位置を大幅に移動させた修正案を作成し、改めて御説明し、ご意見を伺うことといたしました。また、第2回の説明会では事前の開催案内が不十分とのご批判があったことから、広報誌等を通じて、網走市と小清水町の全戸に開催の御案内をし、ご関心のある方に広くご参集いただいた上で、3回目の説明会を行いました。

開催日時等

平成22年9月17日(金) 18時30分～20時30分 網走市農村環境改善センター

説明者

環境省釧路自然環境事務所 次長 則久雅司、野生生物企画官 渡辺洋之、川湯自然保護官 黒江隆太
北海道環境生活部環境局自然環境課 土屋主幹、本間主査
(他にオホーツク総合振興局環境生活課、網走市市民部、同経済部、小清水町産業課が同席)

参加者

地域住民の皆様他計36名
報道機関7社

説明概要

1 濤沸湖において施設整備を行う背景

第1回目の説明会から引き続きの説明となりますが、ラムサール条約の理念である、湿地のワイズユース、保全・再生、交流・学習の3つの柱を実現する拠点施設を濤沸湖において整備すること。また、整備の目的は、自然とのふれあい、環境学習・普及啓発、調査・研究、保全活動、地域における交流・情報交換、地域からの情報発信・発表などを考えていること等を説明しました。また、道内の類似施設を御紹介しつつ、この目的を達成するために必要な機能として、環境学習のための展示、観察、レクチャー、調査・研究活動の支援、地域の活動やボランティア活動などへの支援、濤沸湖で見つかった傷病鳥獣の一時収容を行う機能を持たせることについて紹介しました。

2 整備箇所の選定について

第1回目、第2回目の説明会では、場所の選定経緯については、余り詳しくは御説明していませんでした。このため、改めて、当所からの検討経緯を御説明しました。

(1) 北浜地区の選定

濤沸湖一帯から5箇所の候補地を選定(4箇所が網走市内、1箇所が小清水町内)して比較検討し、電気、上下水道、道路のインフラが整備済みであること、白鳥公園との連携した利用が可能であること、野鳥や湿地植生の観察が行いやすいこと、交通アクセスが比較的容易であることから、北浜地区の白鳥公園隣接地を選定したことを御説明しました。

(2) 北浜地区内での位置の選定

北浜地区の中でも、①台地上にある白鳥展望台周辺、②白鳥公園の道路向かいにあるゲートボール場周辺、③白鳥公園の隣接地(ヒオウギアヤメの再生地)の3つを候補とし、比較検討を行った経緯を御説明しました。具体的には、①については市有地だけでなく民有地及びアクセス用道路として私道の取得が必要になる他、道路部分を完全に塞いでしまうため通行権を阻害すること、観察者が道道を横断して行き来することになることから交通安全上不向きであること。②については、水辺から遠く水鳥や湿地の観察に不向きである上、白鳥公園との一体的な利用が困難であること、現在のパークゴルフ場が利用できなくなることも考慮されました。そして、最終的に、白鳥公園との連携した利用が容易、立地上水鳥・湿地の観察に優位、観察者の動線・誘導に対応しやすい、アヤメの保全については移植による対応が可能といった理由から、③白鳥公園隣接地を比較的優位な場所として選定した旨を御説明しました。

(3) 計画内容の見直し

2月での住民説明会で出された意見等を踏まえて、アヤメ再生地をより保全する観点から計画を再考慮したことを御説明しました。具体的には、2月の説明会の案では、建物本体と駐車場の大部分を、素堀水路からアヤメの再生地側で整備する案となっていました。アヤメ再生地の改変面積を最小限とする観点から、素堀水路を付け替えて、その水路から白鳥公園側(白鳥公園敷地に半分ほどかかる)に大きく変更して整備する大規模な修正案としました。これにより、湿地的な環境であると評価されていた場所は、ほぼその全域を改変面積から除外でき、移植の効果が定かではない希少種については生育域をおおきく残すことで配慮を行いました。また、アヤメについては移植を行います。対象面積が小さくなることから移植が最小限となります。なお、この修正案については、当初案よりも、駐車場スペースが大きく減少します。このことについては、北側に離れて整備されている駐車場を有効活用することなどにより対応を図っていく旨を御説明しました。

3 今後の整備スケジュール

当初予定では、平成22年度に実施設計と建物の着工を行うことになっていましたが、22年度は実施設計のみを行い、建物工事、展示工事、外構工事とその前提としてのアヤメの移植等の事業は23年度に実施する旨を御説明しました。

4 施設運営のイメージ

施設の運営のイメージは、その後、検討が余り進んでおりませんが、協議会方式による運営とする旨を改めて御説明しました。

住民説明会配付資料

1. [表紙・1～2頁](#)----- PDF 310KB
2. [3～6頁](#)----- PDF 451KB
3. [7～8頁](#)----- PDF 268KB
4. [9～10頁](#)----- PDF 116KB
5. [11～12頁](#)----- PDF 107KB

[配置図・平面図](#)----- PDF 561KB

質疑応答の要旨

(整理でき次第掲載します)

[戻る](#)

第4回 住民説明会要旨

第3回目の住民説明会において、建設位置を大幅に移動させ、ヒオウギアヤメの再生地を大きく保全する案をご提案し、ご賛同をいただきました。第4回目は、その上で、具体的な建築の内容と展示のプラン、外構整備の案について御説明し、ご意見を伺ったものです。

開催日時等

平成23年2月28日(月) 18:30～20:30 網走市農村環境改善センター

説明者

環境省釧路自然環境事務所 次長 則久雅司、野生生物企画官 渡辺洋之、川湯自然保護官 黒江隆太
北海道環境生活部環境局自然環境課 本間主査、嶋崎技師
(他にオホーツク総合振興局環境生活課、網走市市民部、同経済部、小清水町産業課が同席)

参加者

地域住民の皆様他計21名
報道機関6社

説明概要

1 建物の設計

第3回目の住民説明会後の具体的な検討によって修正となった点(湖側の屋根形状の変更、屋根裏の保守管理用通路の設置、資料展示室の工夫、管理ヤードの機能配置の変更)について平面図や立面図、パース等を用いて御説明を行いました。

また、地球温暖化対策として省エネを図るため、ヒートポンプ冷暖房の採用、太陽光発電システムの設置、LED照明の導入について御説明しました。

2 展示関係

展示計画について、イメージ図等をお配りして御説明しました。

・この施設でのメインテーマを「環境と生命のかかわりを知る」とし、濤沸湖の特別製、地域の環境学習の2つをサブテーマとして、展示展開の考え方とその手法について御説明しました。手法としては、①生息環境とあわせて動植物を紹介する、②地域の人々の記憶を「濤沸湖を語る(本型展示)」「環境キーワード」として展開する、③ハンズオンアイテムを活用する、④書籍の配置と閲覧スペースを設置する、⑤地域の人等による展示公開スペースを確保するという手法を採用します。

・それに基づき、展示の構成、ゾーニング、空間構成や具体的な展示手法について御説明しています。特徴としては、展示には視界を遮るような大型パネルは用いず、ヨシ原をイメージした人の胸の高さ以下の展示パネルとし、全体的にガラス越しに見える外部の景観を取り込む。また、地域の方々からヒアリングをしてお聞きした昔の濤沸湖に関する情報を、キーワードとして展示や柱、天井など様々な場所に配置する。資料展示室は、地域の方々が集めてきた実物資料を借用して展示し、地域住民と濤沸湖の関わりが分かるようなコーナーとする、等です。

3 木道の位置

今回の施設からヒオウギアヤメの再生地を観察するための木道の整備を計画しています。木道については、環境への負荷の少ないがコストの高い工法であるピンファウンディング工法を採用することとし、第4回説明会までのご要望をお聞きした上で、予算の範囲内において整備することとしています。

また、木道の最終的なルートも、6月に植生調査を実施した上で、決定することを御報告しました。

4 アヤメの移植

ヒオウギアヤメについては、改変面積を大幅に小さくしたことで、移植対象数もかなり少なくなりましたが、その移植行程が課題になっていました。今回、5月の移植適期に、旧北浜小学校内の圃場に一時的に仮移植し、建築工事、外構工事などが終了した秋又は来春に湿地内に再移植すること、また、余ったアヤメの株については、きたはなプロジェクトなど地元事業で活用していただくことを御説明しました。

5 鳥類調査

希少鳥類の調査について御説明しました。この調査は平成22年11月から23年3月にかけて、オジロワシ、タンチョウなど希少鳥類の行動調査の実施、専門家への聞き取り調査等を中心とするもので、23年度も春から夏にかけて調査を実施する旨を御報告しました。

6 新施設の名称

施設の名称について、水鳥観察館、水鳥・湿地センターの2案をご提案し、地名についても、濤沸湖、湊沸湖、とうふう湖の3案、計6つの組合せがあることを御説明し、「とうふう湖水鳥・湿地センター」をご提案しました。

7 今後のスケジュール

今後のスケジュールについて御報告しました。現地着工はアヤメの移植と水路の付け替えが5月頃のスタートとなり、以降、建築工事、展示工事、外構工事を進めて、24年度春のオープンを目指します。

住民説明会配付資料

1. [表紙・内容](#)==== PDF 84KB
2. [建物の設計](#)==== PDF 652KB
3. [省エネ設備の導入について](#)==== PDF 97KB
4. [展示関係](#)==== PDF 243KB
5. [木道の位置](#)==== PDF 471KB
6. [アヤメの移植について](#)==== PDF 721KB
7. [希少鳥類の調査について](#)==== PDF 127KB
8. [新施設の名称について](#)==== PDF 83KB
9. [今後のスケジュール](#)==== PDF 93KB

[配置図・平面図](#)==== PDF 154KB

展示用別添資料

1. [表紙](#)==== PDF 5KB
2. [1頁](#)==== PDF 844KB
3. [2頁](#)==== PDF 683KB
4. [3頁](#)==== PDF 453KB
5. [4頁](#)==== PDF 745KB
6. [5頁](#)==== PDF 452KB
7. [6頁](#)==== PDF 448KB
8. [7頁](#)==== PDF 435KB
9. [8頁](#)==== PDF 350KB
10. [9頁](#)==== PDF 484KB
11. [10頁](#)==== PDF 439KB
12. [11頁](#)==== PDF 233KB

意見要望等

(整理でき次第掲載します)